

## ◇平成28年度 多自然川づくり近畿地方ブロック担当者会議 表彰一覧

### (近畿地方ブロック優秀賞)

発表事例タイトル	発表者	事例の概要
天王川の魚道整備について	福井県 丹南土木事務所  河上 重範	越前市白山地区内を流れる天王川において、平成24年度より魚道を4基設置した。実施にあたってはその都度整備した魚道の課題を抽出し、次の設計施工にフィードバックする”順応的整備”を行っている。
住吉川の多自然型魚道設置とその効果について	兵庫県 総合治水課  石田 樹也	住吉川は、六甲山から下る短い急流で三面張の河川であるが、高水敷の遊歩道は県民の憩いの場として利用されている。 一方、流水部は落差工が点在し、生態系が分断されていたため、H22年度からアユを主対象とした多自然型の魚道を設置し、H27年度には河口から2.2kmまでを完了させた。 施工初期から実施している生態状況調査の結果を用いて魚道設置の効果を分析する。
淀川の天然アユを京都の料亭へ	近畿地方整備局 淀川河川事務所  小川 瑞穂	淀川の天然アユの遡上に影響を与える毛馬水門や井堰などの横断施設について、稚アユの遡上期に配慮した施設操作の工夫や井堰の”小技”、及び京都府・漁協との連携したモニタリング実施により、河口から京都までの水産資源確保や地域活性化に寄与していく。

### (審査員特別賞)

発表事例タイトル	発表者	事例の概要
吉野川(紀の川)の治水整備における植生回復手法について	奈良県 五條土木事務所  松田 有史	吉野川(紀の川)の中流域「阿田工区」では、概ね30年に1度の大雨に対応する為の治水整備が行われている。川沿いは、河床部から河岸の下段まで露出する岩盤に、豊かな植生と特徴的な景観を有しているが、今後の治水整備によって大きな影響を受ける可能性がある。 そこで、奈良県準絶滅危惧種である在来ユキヤナギの現地株を用いた「岩盤孔植樹法」の導入や、水衝部における植生土のうの固定などによって、当該地の特徴的な自然環境・景観の保全、再生を目指す。